

## 中長期的・横断的な課題について（案）

平成26年12月24日  
内閣官房  
知的財産戦略推進事務局

## 1. 知財人財育成

知的財産制度を支えるのは、人財であり、これまでも知財人財の質的・量的な充実を目指した「知的財産人材育成総合戦略」（2006年1月）とそれを相互に補完するものとして知財マネジメント人材等の育成等を目指した「知財人財育成プラン」（2012年1月）を策定し、政府だけでなく、民間でも様々な知財人財育成のための施策が行われてきた。

「総合戦略」が今年度終期を迎えることを踏まえ、これまでの様々な主体による取組を横断的に検証し、今後それぞれの分野で求められる知財人財の育成について、議論していくことが必要ではないか。

## 2. 次世代の知的財産システムの在り方

2013年6月にその後10年間を見据えた「知的財産政策ビジョン」が策定され、1年半が経過したが、技術の進歩は速く、デジタル・ネットワーク化、グローバル化・ボーダーレス化など知財システムを巡る環境変化が益々加速している。例えば、

- － 知的な創造・発信活動にいわゆる専門家のみならず、個人が誰でも容易に参加できるようになり、他方で、機械がそれを創り出す動きも見られる。
- － 大量の情報の獲得、解析、活用が可能になり、そこに大きな価値が形成されるようになっている。
- － そうした新しい知財活動やそれを侵害する行為も、益々国境を越えてグローバルな規模で行われるようになっている。

このような変化を先取りし、社会的に望ましい次世代の知的財産システムの在り方について、中長期的な観点から議論していくことが必要ではないか。